

平成 24 年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	24K06	氏名	神野 幸隆
研究主題 —副主題—	社会科における概念的知識を獲得するための指導法の工夫		
所属校	日野市立夢が丘小学校	派遣先	玉川大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>知識基盤社会が到来したといわれる。今日の授業で学習した知識も、かつて学校教育で学んだ知識も、あっという間に使えない知識になっていく。そんな世の中を生きていく子供たちに、社会科で習得させるべき内容とは、いかなるものなのかを問題意識とした。さらに学習指導要領の改善方針にも「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識，概念や技能を確実に習得させ，それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から，各学校段階の特質に応じて，習得すべき知識，概念の明確化を図る。」と明記されている。社会科教育で最終的に目指される「概念」・「概念的知識」とは、どのような知識なのか。それは、どのような指導方法で概念的知識を獲得させるのか。とりわけ、問いとの関連性はあるのか。一桁下の説明的知識から概念的知識への昇華は、どのような活動や問いをもって行われるのか。このようなことが教育現場に昨今取り入れられてきたが、現場ではその重要性は理解されているが、指導法が明確にされていない。よって、以上のような指導法が明確にされれば、日常の社会科の授業改善につながると考えた。</p>
II 研究の方法	<p>社会科で習得させたい知識について、方法と内容を明確にする。内容面に関しては、岩田や森分に着目し、知識を分類し整理する。方法面においては、「概念が形成される、まとめの活動の学習活動場面」や「問いと知識の関連性」に焦点をあてる。そして、現在どのような研究実践が行われているのか分析したり、教科書の記述内容の分析を行ったりする。検証授業においては、基礎研究で得られた成果をもとにして、子供が概念を獲得できる授業とは、どのような過程なのかを検証する。研究仮説を以下のように設定する。</p> <p>『社会科授業において、学習者に概念的知識が獲得されていないのは、単元末の学習に「社会事象の意味を考える場面」を実施していないからではないか。社会事象の意味や働きを考える場면을単元終末部に設定すれば、学習者は概念的知識を獲得するであろう。』</p> <p>検証授業を第5学年工業単元にて実施した。</p> <p>検証①</p> <p>教科書の発問に追加し、意味認識の問いを設定することにより、説明的知識を獲得することができるのではないか。</p> <p>検証②</p> <p>説明的知識から概念的知識へ収束する発問「工業と私たちの生活とは、どのようにつながっているのだろうか」は事前に設定したような概念的知識を獲得できるのであろうか。</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>理論部分の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科における概念と、国語科の概念では違いがあり、社会科でいう概念とは、単元で獲得させたい社会認識（人の営みや社会参画への態度が入ったもの）と混同して使用されている。 ・知識には、階層性があり、獲得させたいのは、抽象度の高い知識である概念であること。 ・説明的知識を獲得するには、意味を問う問い（「どんな役割」「どんな意味があるのか」）、因果関係を問い、「なぜ・・・か。」が必要である。 <p>現状の授業分析・原因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の授業は、意味認識を考える場面を経ずに、社会参画の方法（ポスターや新聞）を考えてしまうものが多い。 ・教科書の問いは「どのように」「どんな」が大半で、意味や因果関係を問う問いが、ほとんどない。よって授業者にゆだねられてしまっている。 <p>検証授業より</p> <p>検証①では、中小工場の役割を大工場の役割と関係づけて表現することができた。説明的知識を獲得するには事象の因果関係を問う「なぜ」発問は有効であることが分かった。検証②では、児童は工業についての辞書的な意味を書いてしまい、当初めざした概念的知識とは違った記述だった。概念的知識獲得のための問いは、小単元の内容により規定されるのではないかと考える。この単元は小単元で、「中小工場」、「貿易と運輸」、「自動車工場」、「工業地帯」を扱う。それを集約し、工業の概念を問うというのは、無理があることが分かった。例えば第3学年においてコンビニエンスストア・スーパーマーケット・商店街と学習して、地域の商店と私たちの関わりを聞くのと、工業の概念とは桁が違うことが分かった。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>評価について</p> <p>概念的知識を獲得できたといえるためには、どのような評価で可能なのか。今後の課題として残った。</p> <p>社会認識との関連性</p> <p>社会科は、問題解決的な学習を重視し、人の営みを扱いながら、概念的知識を獲得し、社会認識を形成することである。この研究と社会認識形成との関連性が、今後の課題として残った。</p> <p>学校教育への還元</p> <p>現状の社会科では、事象の意味を考える活動が行われていない。それは学習問題や教科書の構成が「どのような」を中心に行われるためである。「なぜ」という問いは授業者に委ねられてしまっている。しかし、この問いこそが説明的知識・概念的知識獲得のためには重要である。そのためには、やはり教師の深い教材解釈力と的確な発問が授業者には求められる。</p>